

東海生研 ～ メールマガジン 第152号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 平成29年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
  - ☆平成29年度第2回セミナーの開催について (10月17日)
  - ☆アグリビジネス創出フェア2017 in 東海 (開催予告) (11月7-8日)
  - ☆平成29年度第3回セミナー (開催予告) (11月21日)
  - ☆その他の行事等
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
  - ☆三重大学大学院生物資源学研究科主催オープンラボ「産学官コミュニティシンポ2017」 (9月1日)
  - ☆10年後への中山間地の農業像 (日本作物学会第244回講演会) (9月14日)
  - ☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」(5月～12月、計7回)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
  - ☆近畿地域マッチングフォーラムの開催 (9月20日)
  - ☆アグリビジネス創出フェア2017 (東京ビッグサイト) (10月4～6日)
  - ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
  - ☆平成29年度官民連携新技術研究開発事業 (農林水産省)
  - ☆戦略的国際共同研究プログラム 日本-英国 (NERC) 共同研究課題募集 (JST)
  - ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージⅢ: NexTEP-タイプ (JST)
  - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)
  - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)
  - ☆平成29年度国際研究開発/コファンド事業/日本-ドイツ研究開発協力事業 (NEDO)
  - ☆平成29年度研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャーに対する事業化支援 (第2回公募) (NEDO)
  - ☆平成29年度戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE)
  - 若手ICT研究者等育成型研究開発 (若手研究者枠・中小企業枠) (総務省)

- ☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
- ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

◆1◆ 「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業

☆平成29年度第2回セミナーの開催について

【目的】農林水産・食品産業分野の先進的研究・利用事例、研究開発を取りまく情勢等について理解を深める。また、企業・団体、大学、試験研究機関等の産学官の参加者が情報交流し、東海地域における研究開発とその実用化促進に資する。

【開催日時】平成29年10月17日(火) 13:30～17:00

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター)13階会議室(1307 1308)  
(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

- ・JR名古屋駅桜通口から ミッドランドスクエア方面 徒歩5分
- ・ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分

【演題・講師】

第1会場(1308会議室)

○水産部会 13:30～14:30

「アコヤガイ外套膜から分離した貝殻形成細胞の移植による真珠生産法の開発」

国立研究開発法人水産研究教育機構 増養殖研究所 養殖システム研究センター  
研究開発専門員 淡路 雅彦 氏

○畜産部会 14:30～15:30

「養豚農家で使える受精卵移植技術 ～伝染病侵入の危険が少ない種豚導入に期待～」

愛知県農業総合試験場畜産研究部主任研究員 田島 茂行 氏

○食品部会 15:40～16:40

「食品製造・加工におけるHACCPと危害要因」

一般社団法人食品品質プロフェッショナルズ 水野 俊秋 氏

第2会場(1307会議室)

○トピックス 13:30～14:30

「機能性食品と食品用途特許を活用した健康食品の6次産業化」

SK特許業務法人 代表社員 奥野 彰彦 氏

○林産部会 14:30～15:30

「CLT(直交集成材)利用の現状と可能性、普及への課題」

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所

複合材料研究領域長 渋沢 龍也 氏

○作物部会 15:40～16:40

「接ぎ木技術の可能性と展望」

名古屋大学大学院生命農学研究科助教 野田口 理孝 氏

【技術相談】「技術相談」のある方は当日受付で、案件名、所属、氏名をご記入したものを提出していただきます。当日は時間がございませんので、後日、十分な時間を取って対応させていただきます。

【情報交流会】17:00～18:30（第2会場1307にて開催） 会費2,500円

【参加費】講演会は参加費無料

【参集範囲】NPO法人東海生研会員、農林水産・食品産業関連企業、農業団体、食品関係団体、建築業関連企業・団体、大学・高校等教育機関、国立研究開発法人、独立行政法人、公的試験研究機関、行政機関、その他内容に関心を有する者

【主催】特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

【後援】名古屋大学大学院生命農学研究科、農研機構中央農業研究センター、公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

【開催要領】<http://www.biotech-tokai.jp/archives/1530>

【申込み】上記開催要領のURLからセミナー申込書を取り出し、必要事項をご記入の上、下記のE-mail、又はFAXでお送り下さい。

E-mail : [bio-npo2@y4.dion.ne.jp](mailto:bio-npo2@y4.dion.ne.jp) TEL&FAX : 052-789-4586

☆アグリビジネス創出フェア2017 in 東海（開催予告：2017年8月9日現在）

### 【目的】

「アグリビジネス創出フェア 2017 in 東海」は、農林水産・食品産業分野における産学官連携によるマッチング促進を目的として、農林水産省の実施する「知」の集積による産学連携推進事業のうち知的財産の技術移転加速化事業及び産学連携支援事業の一環として実施します。

本年度は、あいち産業科学技術総合センター・食品工業技術センターおよびNPO法人近畿アグリハイテクと共催し、講演会・セミナーも開催します。

【開催日時】平成29年11月7日（火）10:00～17:00

11月8日（水）10:00～17:00

【開催場所】名古屋大学 野依記念学術交流館

（名古屋市千種区不老町名古屋大学）

地下鉄名城線 名古屋大学 2番出口より徒歩4分

### 【内容】

（1）開会式 11月7日（火）10:00～10:20

（2）基調講演 7日（火）10:20～11:20

講師（予定）：農林水産省・農林水産技術会議事務局

講演名（予定）：「生物機能の高度活用による新たな農業と新産業の創出」

(3) 成果発表 7日（火）午前、午後

研究・教育機関の研究成果、企業の研究成果

(4) 特別講演 8日（水）13:00～14:00

講師：愛知学院大学教授 大澤 俊彦 氏

講演名：「農林水産物・食品の機能性と健康長寿社会」

(5) あいち産科技セ・食品工業技術センター セミナー 8日（水）14:00～15:30

(6) パネル等の展示 7日（火）10:00～8日（水）17:00

大学・各研究機関・高校・企業等研究成果、6次産業化新製品等の発表

(7) ポスターセッション 7日（火）午後、8日（水）午後

(8) 相談コーナー開設 7日（火）16:00～17:00

農林水産省産学官連携事業コーディネーターが対応

【出展募集要領】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/1469>

【参集範囲】 アグリビジネス創出フェアの展示・発表等にご関心のある方はどなたでもご参加ください。異分野のご専門の皆様もぜひご参加ください。

【主催】 特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

【共催】 NPO法人近畿アグリハイテク、あいち産科技セ・食品工業技術センター

【後援】 名古屋大学大学院生命農学研究科、農研機構中央農業研究センター

公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

【出展】 研究機関・企業・団体等：70ブース（予定）

【問い合わせ先】 特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 事務局（大石、道村）

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : b i o - n p o 2 @ y 4 . d i o n . n e . j p (道村)

.....

☆平成29年度第3回セミナー（開催予告）

～農林水産業におけるICT、IoT等の利用による技術革新（仮題）～

【開催日時】 平成29年11月21日（火）13:30～17:00

【開催場所】 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター）10階会議室（1008会議室）

（名古屋市中村区名駅4丁目4-38）

・JR名古屋駅桜通口から ミッドランドスクエア方面 徒歩5分

・ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分

【演題・講師】 検討中

【主催】 特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

.....

☆その他の行事等

○競争的資金説明会： 1月中旬

○情報誌「バイオテック東海」： 12月発行予定

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆三重大学大学院生物資源学研究科主催オープンラボ「産学官コミュニティシンポ2017」

三重大学大学院生物資源学研究科に所属する教員、院生の日頃行っている農林水産・食品・バイオ・環境分野の研究成果が、シンポジウム、ポスターセッションの2つの形式で紹介されます。今後の大学と企業、地域とのコミュニティ作りに向けた新しい展開が期待されています。

【開催日時】 2017年9月1日（金） 13時～17時30分（受付12時30分～）

【開催場所】 三重大学生物資源学研究科棟（2階大講義室）・環境情報科学館（3階）

【主催】 三重大学大学院生物資源学研究科

【対象者】 関連の企業・団体、一般の方

【実施内容】

- ・シンポジウム：5課題の講演、質疑応答
- ・ポスターセッション：学生・教員による研究紹介
- ・懇親会：参加費3000円（当日会場にて受付）。生協第1食堂 学生のポスター賞表彰

【実施要領】 <http://www.bio.mie-u.ac.jp/edafb3a7076087c9c0f0713878f4e79b.pdf>

【参加申込】 参加費無料。

参加申込と締切 上記の「実施要領」にある「参加申込書」に必要事項をご記入の上、下記のE-mail又はFAXでご連絡下さい。

申込締切 8月23日（水）

担 当 生物資源学研究科チーム 総務担当（羽津本）

E-mail：[renkei@bio.mie-u.ac.jp](mailto:renkei@bio.mie-u.ac.jp) Fax：059- 231- 9634

参加費 無料

☆10年後への中山間地の農業像

（日本作物学会）

日本作物学会は、第244回講演会シンポジウムを下記の通り、岐阜大学で開催します。

【開催日時】 2017年9月14日（木） 13時～17時20分

【開催場所】 岐阜大学 講堂

【実施内容】

- ・第1部 10年後への中山間地域社会・中山間地域農業（3課題の講演）
- ・第2部 地域資源と生きる中山間地域農業（4課題の講演）
- ・第3部 総合討論 パネルディスカッション

【開催案内】 <http://www.cropsociety.jp/meeting/244/symposium.html>



<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/07/076463.html>

【チラシ】 <http://www.naro.affrc.go.jp/event/files/warc-ivent-20170727a1.pdf>

【参加】 募集定員150名、参加費無料

参加申込：平成29年8月30日（水）までに、上記の開催案内に付いている参加申込書のファイルを取り出してご記入の上、メール又はファックスでお送り下さい。

申込先：E-mail: [toybox@ml.affrc.go.jp](mailto:toybox@ml.affrc.go.jp) Mail: FAX: 084-923-5215

.....

☆アグリビジネス創出フェア2017（東京ビッグサイト）

平成29年度のアグリビジネス創出フェア2017は、下記の通り、10月4日～6日に東京ビッグサイトで開催されます。

【開催日時】 平成29年10月4日（水）～6日（金）両日とも10：00～17：00

【開催場所】 東京ビッグサイト 東7ホール（東京都江東区有明3-11-1）

【入場料・出展料】 無料（事前又は当日登録が必要）

【開催規模】 予定参加者数延べ35,000人以上、出展300小間程度（うち一般の出展者210小間程度）

【ホームページ】 <http://agribiz-fair.jp/>

【お問い合わせ】 アグリビジネス創出フェア2017事務局  
（一般社団法人日本能率協会 産業振興センター内）

TEL:03-3434-1988 FAX:03-3434-8076 E-mail: [abf@jma.or.jp](mailto:abf@jma.or.jp)

.....

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆4◆ 平成29年度競争的研究資金等について

☆平成29年度官民連携新技術研究開発事業

（農林水産省農村振興局）

[http://www.maff.go.jp/supply/170711\\_1.html](http://www.maff.go.jp/supply/170711_1.html)

分野等：

1. 農地の大区画化・汎用化に資する技術
2. 農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るための適切な保

全管理に資する技術

3. 土地改良施設の耐震強化等に資する技術
4. 小水力発電等の農業水利施設等を活用した再生可能エネルギーの導入促進に資する技術
5. 農業収益力向上に資する先進的な基盤整備に係る技術

公募期間：平成29年7月11日～8月31日

.....  
☆戦略的国際共同研究プログラム 日本－英国（NERC）共同研究課題募集 （JST）

[http://www.jst.go.jp/sicoro/announce\\_uk\\_NERC1st.html](http://www.jst.go.jp/sicoro/announce_uk_NERC1st.html)

分野等：海洋観測のための革新的な生物・生物地球化学センサー分野に関する日本と英国の国際共同研究

公募期間：平成29年6月20日～8月24日

.....  
☆研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP） ステージⅢ：NexTEP-タイプ （JST）

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～11月30日（第2回締切）  
30年3月30日（第3回締切）

.....  
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ （JST）

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_mirai01.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う、未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～11月30日（第2回締切）  
30年3月30日（第3回締切）

.....  
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ （JST）

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_ippan01.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～11月30日（第2回締切）



.....  
☆平成29年度国際研究開発/コファンド事業/日本—ドイツ研究開発協力事業（NEDO）

[http://www.nedo.go.jp/koubo/AT092\\_100108.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/AT092_100108.html)

分野等：NEDOは、平成29年3月に、経済産業省とともにドイツ連邦経済エネルギー省と、日独両国の共同研究開発プロジェクトが、両国の産業競争力強化および国際化促進にとって重要であるとの認識のもと、両国が「コファンド形式」にて、企業間の国際研究開発を支援していくことに合意し、共同声明に調印した。NEDOは、本共同声明に基づき、「インダストリー4.0」や「IoT」の概念を打ち出して世界をリードしているドイツと、日独の企業等による「国際研究開発/コファンド事業」の公募を行う。対象技術分野は、新エネルギー、省エネルギー、スマートコミュニティ、環境、ロボット、機械システム、電子・情報（AI・IoT含む）、材料・ナノテクノロジー等。

公募期間：平成29年6月19日～8月17日

.....  
☆平成29年度研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャーに対する事業化支援（第2回公募）」（NEDO）

[http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100154.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100154.html)

分野等：ベンチャーエコシステムにおいて重要な役割を果たすベンチャーキャピタル及びシードアクセラレータ等とNEDOが協調し、シード期の研究開発型ベンチャーが必要とする研究開発及び事業化に必要な資金、並びにその活動を支援する。

公募期間：平成29年7月19日～8月21日

.....  
☆平成29年度戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）  
若手ICT研究者等育成型研究開発（若手研究者枠・中小企業枠）」（総務省）

[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/scope/](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/scope/)

分野等：ICT分野の研究者として次世代を担う若手人材を育成することや中小企業の斬新な技術を発掘するために、若手研究者又は中小企業の研究者が提案する研究開発課題。

公募期間：平成29年7月5日～10月13日（若手研究者枠）

.....  
☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!)（総務省）

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000206.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html)

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジ

ェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- ① いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- ② G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- ③ 以心伝心ICTサービス基盤
- ④ フレンドリーICTサービス技術
- ⑤ 社会インフラ維持管理サービス技術
- ⑥ レジリエント向上ICTサービス技術
- ⑦ 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合をはかるなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～30年3月30日

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記のURL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

## ◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆農業・食品情報関係

・農林水産省のホームページに農業技術・研究の見える化サイトが開設されました！

農林水産省は、農業現場における技術的問題の解決に役立てるために、最新の技術や研究成果について、生産者が活用しやすい環境を整備しました。具体的には、これまでホームページ等に分散していた農業技術に関する情報を集約し、一元的に検索可能な「農業技術総合ポータルサイト」を本年4月10日に公開しました。また、多数の農業研究者と研究成果等を検索できる「まるみえアグリ：農業研究見える化システム（仮称）」を公開しました。これらは、スマホ・タブレットでも閲覧できます。

「農業技術総合ポータルサイト」は、下記のURLより御覧下さい。

[http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/gijutsu\\_portal/top.html](http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/gijutsu_portal/top.html)

新規就農者や新たな作物に挑戦する人が知りたい各品目の基本的な栽培技術の情報のほか、現場が直面している課題解決に役立つ様々な実用化技術やマニュアルなどを知ることができます。

「まるみえアグリ：農業研究見える化システム（仮称）」は、下記URLから御覧下さい。

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/>

最新の研究成果や研究者にアクセスしたい先進農家等は「まるみえアグリ」を利用できません。平成29年4月10日までに収録された研究者と研究成果の数は、それぞれ約3,300名と約28,000件で、今後も充実させる予定となっています。生産者をはじめ、普及指導機関、関連団体・企業等により活用されることが期待されています。&#160;

#### ☆稲・麦・大豆関係

- ・変動気象に対応可能な水稻高温傷害早期警戒・栽培支援システムの開発  
～水稻の高温障害である白未熟粒の発生を抑える追肥量や、胴割れ被害を回避する刈取適期を知ることのできるシステムを開発～

農研機構農業環境変動研究センターを研究総括者とする共同研究グループは、近年の温暖化傾向の下で問題となっている高温傷害（白未熟粒、胴割れ粒）の対策として、予測した登熟期の気温推移に応じて肥培管理を変更することで傷害を低減させるシステムを開発しました。胴割れ粒については、登熟初期の気温条件と出穂後積算温度、及び登熟後期の葉色（SPAD）値から、「コシヒカリ」の胴割れ発生率を予測する手法を開発しました。そして、高温年において胴割れによる品質低下を抑える適期刈取り支援技術を開発しました。また、穂揃期においてSPAD値が適切な値（コシヒカリでは35）となっていれば、登熟前半が高温になっても基部未熟粒の発生を抑制でき食味の低下も抑えられることを明らかにし、更に、穂揃期のSPAD値が適切な値となるように2回目の穂肥を調整する技術を開発しました。2017年には、本システムの利用を4県、200人程度の協力者に実施していただくことを目指しています。

農林水産省発行「研究紹介2017」掲載記事から抜粋（この冊子は当研究会にございます）

#### ☆野菜関係

- ・加工用ハウレンソウの多収抑草技術の開発による機械収穫生産体系の確立

本研究成果は、農研機構九州沖縄農業研究センターが研究総括を務める共同研究グループによって生み出されました。成果の中身は、中小規模の加工用ハウレンソウ生産において省力・低コスト化を図るために、歩行型小型収穫機を中核とする機械化体系を開発しました。この体系には、歩行型小型収穫機による収穫体系、機械収穫に伴う雑草などの異物混入を低減させる方法、厳寒期の生産量不足や春期の供給過剰を防ぐ、積算温度計算を基とする栽培計画法や栽培技術などが含まれています。この技術により、中小規模生産者が主体となって

いる産地で、省力低コスト化で産地の維持拡大が期待されます。2017年には、機械収穫体系マニュアルの公開、技術講習会などが行われます。

農林水産省発行「研究紹介2017」掲載記事から抜粋（この冊子は当研究会にございます）

☆蒸熱処理により化学農薬の使用を低減し、クリーンなイチゴ苗から始まる防除体系を構築しました！

本研究成果は、農研機構九州沖縄農業研究センターが研究総括を務める共同研究グループによって生み出されました。イチゴの苗は、主要な病害虫よりも耐熱性が高いことを見だし、この差を利用して、苗に大きな障害を与えずに、病害虫だけを死滅させる小型の蒸熱処理防除装置と防除条件を開発・解明しました。更に、蒸熱処理前後の防除体系も開発しマニュアル化しました。開発した蒸熱処理装置は、「苗類病害虫防除装置」として販売され、マニュアルは研究開発した九州沖縄農業研究センターが配布しています（2018年にWeb公開予定）。

農林水産省発行「研究紹介2017」掲載記事から抜粋（この冊子は当研究会にございます）

☆食品関係

・高機能発酵食品開発のための発酵食品セラミドの機能性解明

本研究成果は、佐賀大学が研究総括を務める共同研究グループによって生み出されました。日本食の発酵食品（甘酒、塩麴、濁り酒、味噌、醤油、お酢等）には麴グリコシルセラミドが共通して含まれ、その含量を解明しました。また、グリコシルセラミドが腸内で分解・吸収されて肝臓に運ばれ、PPAR $\gamma$ を活性化すること、中性脂肪吸収阻害を起こし肝臓コレステロールを低下させることを確認しました。麴セラミドの機能性は和食全般の機能性として世界に訴求出来ます。

農林水産省「研究紹介2017」掲載記事から抜粋（この冊子は当研究会にございます）

.....  
編集後記

8月に入って、台風5号が紀伊半島に上陸し、北陸に抜けていきました。台風5号は史上3番目に長寿命で、上陸してからの動きも遅く、陸側を通過したので降水量が多くなりました。東海地域では、豊橋市で竜巻が発生し、民家の屋根が飛ばされたり、農業用ガラス室が破損するなどの被害が出ました。三重県の松阪市、桑名市でも帯状の場所で屋根瓦が飛ばされるなどの被害が発生し、竜巻かどうかの調査が行われています。かつては、竜

巻は米国など大陸で発生するものであり、国内では殆ど起こらなかったと記憶していますが、昨今は温暖化の進行で気象変化のエネルギーが大きくなっているのではないかと考えられます。

ところで、最近読んだ本に大江正章著「地域に希望あり ～まち、人・仕事を創る～」(岩波新書、2015年5月発刊)があります。著者は、農・食・環境・自治などについての本を著しているジャーナリストです。2008年には岩波新書から「地域の力 ～食・農・まちづくり～」を出版しています。今回紹介する本は、東日本大震災、福島原発事故、増田氏らの著書「地方消滅 - 東京一極集中が招く人口急減」(中公新書)の出版等、激変する社会環境の変化の下で、新たに書き加えた部分や、その後の地域活性化の動向などを具体的に紹介しており、各地域において様々な取組みが行われているのが分かります。

人口推計学による人口の将来予測は、現在のような政策が続くとすると、ほぼ予測通りに減少するとされています。2050年には、日本の人口は約1億2百万人(現在約1億2千6百万人余)に減少するとともに、東京などの大都会に人口が集中し、農山漁村地域は、ますます高齢化、少子化、過疎化が進むと推測されています。

しかし、本書を読むと、環境的に優れ、住みやすく、仕事を創り出せる魅力ある地域にしていくならば、都会からの若者等の地方への移住が少なからず起こる可能性が示唆されています。著者は、様々な地域での取材を続ける中で、「地域には希望がある」と実感し、その共通点として、①企業誘致、公共事業依存路線には未来はなく、環境を大切に、住民主体の持続可能な地域づくりが明確に意識されていること、②身の丈に合った着実な進展、小さな成功の積み上げが大切にされていること、③地元根差したNPOなどの仕組みを設け、役割を分担し、地域づくりを持続させていること、④農山村の価値や知恵に学ぶ都市生活者やボランティアなどの応援団がいて、交流から定住へと進むケースがみられること、⑤農山村と都市は共存すべきであり、都市住民が人間らしく生きるのに農の存在が不可欠という認識があることを述べています。本書では、これらのことが具体的事例で紹介されていますので、地域活性化に関心を持つ方にはたいへん参考になると思われます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>